板橋区公文書館
板橋区教育委員会生涯学習課
板橋区立郷土資料館
平成 29 年 5 月発行　刊行物番号 29-11

いたばしの民俗と

櫻井徳太郎

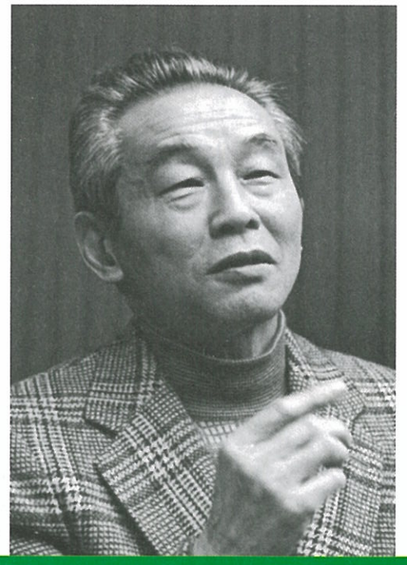
板橋区

はじめに

この度、板橋ゆかりの民俗学者・櫻井徳太郎先生が生まれて100年を迎えたのを機に、先生の歩みと学問、そして板橋の民俗について、1年間を通して、企画展示や講演会など、さまざまな行事を行うことになりました。

このリーフレットでは、長く板橋に住み、板橋から日本全国、さらには海外へ旅して調査を行い、民俗学、そして歴史や宗教研究の分野で大きな業績を残した櫻井先生について紹介します。また、先生が研究した民俗学に即して、区民に身近な板橋の民俗や、先生と板橋区とのかかわり、板橋区の文化行政への貢献についても紹介します。

これを機会に、板橋の民俗や歴史・文化について考え、さらに関心を高めて頂ければと思います。



目次

櫻井徳太郎の歩み 2 - 3

板橋の民俗 4 -9

胸突き地蔵 6-7

代かき地蔵 8-9

櫻井徳太郎と板橋 10-11

櫻井徳太郎の学問 12-13

民俗学 12　講集団の研究 12

民間信仰の研究 13

シャマニズムの研究 13

柳田國男と南方熊楠 14-15

櫻井徳太郎文庫 16

櫻井徳太郎賞 17

主要著作 18　参考文献 19

年譜 20

櫻井徳太郎の歩み

板橋ゆかりの櫻井徳太郎先生は、民俗学や歴史・宗教について、すばらしい研究を行った人物です。櫻井先生の歩みと学問について紹介しましょう。

櫻井先生は大正６年（1917）、今の新潟県長岡市川口和南津に生まれました。山と川にはさまれた緑豊かなところです。冬にはとても多くの雪が降ります。

櫻井先生は地元の小学校に通いましたが、そこでひとりの先生に出会います。その先生は子供たちを連れて山へ登り、子供たちが住んでいる地域を見せ、その地形や家並み、学校や神社などがどこにあるか、それはなぜそこにあるのか、を子どもたちに考えさせる授業を行いました。

自分たちが毎日生活しているところから考える授業はたいへん印象的だったようで、櫻井先生はのちに、この授業から、自分たちの住んでいるところを見て、そこから考えることが大切だと学んだと言っています。

そのあと、新潟県高田市の学校を卒業して、東京の学校に入ります。東京の大学では歴史学を学びましたが、民俗学（※1）という学問を作った柳田國男という人が書いた本を読んで、普通の人びとの生活から考える民俗学という学問に関心をもちました。

戦争のおわったあとの昭和21年（1946）から大学につとめ、大学の寮内に引っ越しました。この寮は今の板橋区平和公園のところにありました。

また、この頃から、柳田國男のもとで民俗学を学び始めました。

昭和32年（1957）に『昔ばなし』、翌年に『日本民間信仰論』という本を出版しました。

（※1）民俗学は、文字ではなく、口で伝えられてきたことや習慣・ならわしとして伝えられてきたことを調べて、昔のことを知ろうとする学問です。たとえば、人びとの毎日のくらしや、毎年決まった季節に行うお祭り、結婚式やお葬式の様子、古くから語りつがれてきた昔ばなしや伝説などです。

これに対して、歴史学は、昔のことを文字で書かれた記録から学ぼうとする学問です。

昭和37年（1962）は、櫻井先生にとって大切な年でした。8月には恩師の柳田國男が亡くなりました。先生は調査を行っていた山村から急いで東京に帰りました。10月には、それまでの研究をまとめた『講集団成立過程の研究』という本が高い評価を受けて、柳田國男を記念した賞を受けました。

その後、シャマニズム（※2）の調査と研究に力を入れ、民間信仰（※3）やシャマニズムについての本をたくさん書きました。

昭和50年代になると、板橋区の文化について意見をいったり、指導を行うようになりました。板橋区のために先生が行なったことは、今もいろいろな形で受けつがれています。

平成19年（2007）に病気のために、90歳で亡くなりました。

（※2）シャマニズム（シャーマニズムとも書きます）とは、神や仏、死んだ人の霊を乗り移らせて、神仏や死んだ人の言葉をしゃべったり、これから起こることを予言したり、病気を治す方法を教えたりすることです。東北地方のイタコや沖縄・奄美地方のユタなどがよく知られています。

（※3）民間信仰は、今の神道や仏教・キリスト教・イスラム教などとはちがい、身近な地域の中で、長い間、毎日の生活とかかわりながら、その地域の人びとに信じられているものです。

たとえば、病気を治してくれるお地蔵さまや川の近くにまつられる水神さまなどです。そのほかに、妖怪や「おまじない」もそうです。

それでは、板橋にはどのような民俗があるのでしょうか。次のページから、いくつか紹介します。そして、これを機会にぜひ自分たちの身の回りにある民俗や歴史、文化に関心をもって、学び、調べてみてください。

板橋の民俗

●田遊び

徳丸北野神社と赤塚諏訪神社で行われる田遊びは、有名な行事です。

田遊びは、米作りが始まる前に、米を作るようすをまねして、秋に米がたくさんできることや、地域や家族が栄えることを願うものです。

徳丸北野神社では２月 11 日に行われます。よねぼう、太郎次・やすめ、獅子、牛などが登場して、お祭りを盛り上げます。

大門にある赤塚諏訪神社の田遊びは２月13日です。江戸時代の学者がそれを見て、昔の様子をよく残したお祭りだと書いています。

赤塚諏訪神社の田遊び

徳丸北野神社の田遊び

●縁切榎

全国には男女の縁を切るというお地蔵さまやお稲荷さまなどがありますが、板橋本町にある縁切榎も男女の悪い縁を切ると伝えられています。江戸時代とすこし場所は変わっていますが、現在も縁切榎には多くの絵馬が掛けられています。

今では、病気と縁を切って健康になりたいというような願いもたくさんあります。

縁切榎茶屋風景絵馬

●お札

板橋にはお札がたくさん残されている家があります。ここでいうお札とは、家族や地域の安全を願う人びとが、神社やお寺からもらってくる「お守り」のようなものです。

これを調べると、当時の人びとがどのような願いをもっていたのか、どれほど遠くの場所まで行ったのかなど、いろいろなことがわかります。

徳丸に残っているお札の中には、近くの安楽寺・北野神社などのお札だけでなく、板橋から遠い山形県の羽黒山や香川県の金毘羅山のお札も残されています。

御嶽神社のお札

●富士講と富士塚

板橋にはかつて、お金を出し合って富士山に登ってお参りをする集団がありました。富士講といいます。一年に一度、選ばれた人が行ったり、全員で行ったりします。

富士講の人たちは、自分たちの住むところに、土を盛るなどして小さな富士山を造っておまつりました。これを富士塚といいます。氷川町の氷川神社や上赤塚の氷川神社、下赤塚の諏訪神社などには今も富士塚があります。

赤塚諏訪神社の富士塚

●病気を治す神社

仲町にある轡神社には、せきやぜんそく、かぜが治るようにとお祈りする人が多く訪れました。神社にある馬のわらじを神棚にそなえ、麻で作った糸を首に巻くとよいといわれました。病気が治ると、新しいわらじと麻の糸を神社に納めます。

轡神社のわらじ

●水の神

荒川や石神井川などの近くには水神さまがまつられています。川は人間の生活になくてはならない水を与えてくれますが、洪水で田畑や家が流されたり、病気や事故が発生することもあります。水辺にまつられた水神さまに対する願いはたいへん強かったのです。

●庚申塔

板橋には庚申塔という石で作った塔がたくさんあります。1年に6度ある「庚申の日」に集まって、お祭りごとをしたあと、みんなで食事をして楽しみました。

赤塚の庚申塔